

浜の活力再生プラン
(第2期)

1 地域水産業再生委員会 ID:1102033

| | |
|------|--------------------------------|
| 組織名 | 深浦町風合瀬地区地域水産業再生委員会 |
| 代表者名 | 会長 坂 崎 清 美 (風合瀬漁業協同組合 代表理事組合長) |

| | |
|-----------|--|
| 再生委員会の構成員 | 風合瀬漁業協同組合、深浦町農林水産課、青森県西北地域県民局地域農林水産部鮎ヶ沢水産事務所 |
| オブザーバー | 青森県農林水産部水産局水産振興課 |

| | |
|-----------------------|---|
| 対象となる地域の範囲及び 漁業の種類 | 深浦町風合瀬地区地域漁業者 36名 底建網漁業 (13名) 一本釣漁業 (13名) 延縄漁業 (10名) |
|-----------------------|---|

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

| |
|---|
| <p>深浦町風合瀬地区は、ヤリイカ、ヒラメ、ウマヅラハギ、カレイを対象とした底建網漁業、ウスメバル、ワラサ(ブリ)、タラを対象とした一本釣漁業、クロマグロ、タイ、アカムツ等を対象とする延縄漁業を主力とした漁村である。</p> <p>しかしながら近年は、海水温の上昇等、海洋環境の変動が大きく、漁業資源に影響を及ぼしている。主力魚種のヤリイカに於いては、好・不漁の差が大きく、近年ヤリイカに変わる主力魚種として期待されていたクロマグロは資源管理により漁獲を制限されており、さらに燃油及び資材等の高騰も続くなど、漁業環境は依然として厳しい状況にある。</p> <p>一方で漁業者は、新たな収入増加に向け、地元水産物や観光資源を活用した参加型事業に取り組み、水産物の魅力を国内外に発信すると共に、付加価値向上、漁業経営の安定化に取り組んでいる。</p> |
|---|

(2) その他の関連する現状等

| |
|--|
| <p>当地域は、40～50代の漁業者が7割を占めており、浜の活性に向け後継者育成、他地域との広域連携により魅力ある漁業を目指し、試行錯誤している</p> |
|--|

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

| |
|--|
| |
|--|

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

漁業経営の安定化に対応する為、1期浜プランの内容と新たな内容の取組を併せて行う。

- ① 熟練漁業者の指導の基に、若手も含めて共通した目利きをすることにより、引き続き活〆出荷に取り組むと共に新たに箱詰数量の見直しを図る。
- ② 道の駅「かそせいか焼き村」において、低価格で取引される鮮魚を道の駅販売グループ「友の会」に加工食材として提供し、一夜干しや飯寿し等付加価値を付けて販売する。
- ③ 道の駅「かそせいか焼き村」において、地元で食される漁師飯のレシピ提供による鮮魚の販売増加に努め、さらに、お土産としても流通可能な冷凍販売にも取り組む。
- ④ 水産物資源の増大を図るためヤリイカ、ウスメバル等の増殖場の整備を推進する。
- ⑤ 燃油高騰に対応する為、引き続き省燃油活動を実施する。

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

漁業者は第1期浜プランに引続き、漁協の資源管理計画に基づく休漁日の設定、操業期間の短縮、青森県の資源管理計画に基づいた小型魚の再放流に努める。

(4) 具体的な取組内容 (毎年ごとに数値目標とともに記載)

1年目 (平成31年度)

| | |
|--------------|--|
| 漁業収入向上のための取組 | <p>以下の取組により、底建網漁業で2%、一本釣漁業で2%の所得向上を図り、延縄漁業では体制を整える。</p> <p>① 底建網漁業者は、第1期に引き続き活締めや神経抜き技術を活用して単価向上に努めると共に、長年の経験を生かした目利きにより価値のある魚を選別し、仲買業者、小売業者と連携した箱詰め数量等の改善により単価の向上に繋げる。</p> <p>一本釣漁業者は、第1期に引き続きウスメバルの色揚げや低温管理に取組み、需要が高くなった400g以上のウスメバルについては道の駅と連携し、「朝どれ」、「超新鮮」などをキャッチフレーズとした独自のメバル御膳の開発に取組む。また、県鮭ヶ沢水産事務所の指導のもと、新魚種としてサワラの本一本釣と鮮度保持技術の習得に取組み、新たな収入源としての確立を目指す。</p> <p>延縄漁業者は、マグロ資源管理に対応するため、高値取引の時期を狙って操業するなど新たな操業秩序を構築し、協議を重ねていくことで、所得向上を目指す。</p> <p>高級魚として需要が高いノドグロ、アラに於いては漁場も限られていることから、資源回復を最優先として他種漁業と連携し、長期的な計画改善を行うことで所得向上を目指す。また、新魚種としてサワラの延縄漁業の導入について、他漁業との調整を図りながら検討し、鮮度保持技術を習得して収入源としての確立を目指す。</p> <p>② 多量の漁獲の際に安値で取引される魚種(カレイ、サバ等)においては、「かそせいか焼き村」を最大限に活用し、「友の会」と連携して加工、惣菜、飯寿司等の原料として提供し、付加価値を付けて販売する。</p> <p>カワハギについては、現在、道の駅にて野締め皮無しで販売しているが、400g以上のカワハギについては需要が多い活締め肝付として販売する。</p> <p>③ 漁協は、漁業者の所得向上のために「かそせいか焼き村」を漁師の顔の見える直売所とするべく、鮮魚や加工品の販売、イベント等の開催等に取り組む。また、ホームページを活用して「青森津軽日本海のお魚」、「白神の魚」などの情報発信を行うとともに、青森、弘前市をターゲットとした県内の道の駅やスーパー等と連携したイベントの開催により所得向上に取り組む。さ</p> |
|--------------|--|

| | |
|----------------------|--|
| | <p>らに、アジアからの観光客が増えていることから、決済のキャッシュレス化に取り組み、道の駅の利用率向上を目指す。</p> <p>④ 漁業者は、ヤリイカ、ウスメバルの水揚げ増を目的として藻場や産卵礁の整備を行政機関に要望していく。また、漁業者自らも整備された増殖場が維持されるように、藻場の増殖や産卵期における操業自粛区域の設定によって産卵期の親魚を保護し、増殖場での産卵個体を増加させる。さらに、底建網に数多く産卵するヤリイカの卵を回収し、増殖場にてふ化出来るような体制づくりに取組むとともに、効果的な産卵個体の保護について、県や研究機関とともに引き続き検討を行う。</p> |
| <p>漁業コスト削減のための取組</p> | <p>⑤ 漁業者は、漁船減速航行（1～2ノット減速）に努め、10%の燃油削減を目指す。</p> |
| <p>活用する支援措置等</p> | <p>省燃油活動推進事業（国）、水産環境整備事業（国）</p> |

2年目（平成32年度）

| | |
|--------------|--|
| 漁業収入向上のための取組 | <p>以下の取組により、底建網漁業で3%、一本釣漁業で3%、延縄漁業で1%の所得向上を図る。</p> <p>① 底建網漁業者は第1期に引き続き活締めや神経抜き技術を活用して単価向上に努めると共に、長年の経験を生かした目引きにより価値のある魚を選別し、仲買業者、小売業者と連携した箱詰め数量等の改善により単価の向上に繋げる。</p> <p>一本釣漁業者は、第1期に引き続きウスメバルの色揚げや低温管理に取組み、需要が高くなった400g以上のウスメバルについては道の駅と連携し、「朝どれ」、「超新鮮」などをキャッチフレーズとした独自のメバル御膳の開発に取組む。また、県鮭ヶ沢水産事務所の指導のもと、新魚種としてサワラの一本釣と鮮度保持技術の習得に取組み、新たな収入源としての確立を目指す。</p> <p>延縄漁業者は、マグロ資源管理に対応するため、高値取引の時期を狙って操業するなど新たな操業秩序を構築し、協議を重ねていくことで、所得向上を目指す。</p> <p>高級魚として需要が高いノドグロ、アラに於いては漁場も限られていることから、資源回復を最優先として他種漁業と連携し、長期的な計画改善を行うことで所得向上を目指す。また、新魚種としてサワラの延縄漁業の導入について、他漁業との調整を図りながら検討し、鮮度保持技術を習得して収入源としての確立を目指す。</p> <p>② 多量の漁獲の際に安値で取引される魚種（カレイ、サバ等）においては、「かそせいか焼き村」を最大限に活用し、「友の会」と連携して加工、惣菜、飯寿司等の原料として提供し、付加価値を付けて販売する。</p> <p>カワハギについては、現在、道の駅にて野締め皮無しで販売しているが、400g以上のカワハギについては需要が多い活締め肝付として販売する。</p> <p>③ 漁協は、漁業者の所得向上のために「かそせいか焼き村」を漁師の顔の見える直売所とするべく、鮮魚や加工品の販売、イベント等の開催等に取り組む。また、ホームページを活用して「青森津軽日本海のお魚」、「白神の魚」などの情報発信を行うとともに、青森、弘前市をターゲットとした県内の道の駅やスーパー等と連携したイベントの開催により所得向上に取組む。さらに、アジアからの観光客が増えていることから、決済のキャッシュレス化</p> |
|--------------|--|

| | |
|---------------|--|
| | <p>に取り組み道の駅の利用率向上を目指す。</p> <p>④ 漁業者は、ヤリイカ、ウスメバルの水揚げ増を目的として藻場や産卵礁の整備を行政機関に要望していく。また、漁業者自らも整備された増殖場が維持されるように藻場の増殖や産卵期における操業自粛区域の設定によって産卵期の親魚を保護し、増殖場での産卵個体を増加させる。さらに、底建網に数多く産卵するヤリイカの卵を回収し、増殖場にてふ化出来るような体制づくりに取組むとともに、効果的な産卵個体の保護について、県や研究機関とともに引き続き検討を行う。</p> |
| 漁業コスト削減のための取組 | ⑤ 漁業者は、漁船減速航行（1～2ノット減速）に努め、10%の燃油削減を目指す。 |
| 活用する支援措置等 | 省燃油活動推進事業（国）、水産環境整備事業（国） |

3年目（平成33年度）

| | |
|---------------------|--|
| <p>漁業収入向上のための取組</p> | <p>以下の取組により、底建網漁業で5%、一本釣漁業で4%、延縄漁業で2%の所得向上を図る。</p> <p>① 底建網漁業者は第1期に引き続き活締めや神経抜き技術を活用して単価向上に努めると共に、長年の経験を生かした目引きにより価値のある魚を選別し、仲買業者、小売業者と連携した箱詰め数量等の改善により単価の向上に繋げる。</p> <p>一本釣漁業者は、第1期に引き続きウスメバルの色揚げや低温管理に取組み、需要が高くなった400g以上のウスメバルについては道の駅と連携し、「朝どれ」、「超新鮮」などをキャッチフレーズとした独自のメバル御膳の開発に取組む。また、県鮭ヶ沢水産事務所の指導のもと、新魚種としてサワラの一本釣と鮮度保持技術の習得に取組み、新たな収入源としての確立を目指す。</p> <p>延縄漁業者は、マグロ資源管理に対応するため、高値取引の時期を狙って操業するなど新たな操業秩序を構築し、協議を重ねていくことで、所得向上を目指す。</p> <p>高級魚として需要が高いノドグロ、アラに於いては漁場も限られていることから、資源回復を最優先として他種漁業と連携し、長期的な計画改善を行うことで所得向上を目指す。また、新魚種としてサワラの延縄漁業の導入について、他漁業との調整を図りながら検討し、鮮度保持技術を習得して収入源としての確立を目指す。</p> <p>② 多量の漁獲の際に安値で取引される魚種（カレイ、サバ等）においては、「かそせいか焼き村」を最大限に活用し、「友の会」と連携して加工、惣菜、飯寿司等の原料として提供し、付加価値を付けて販売する。</p> <p>カワハギについては、現在、道の駅にて野締め皮無しで販売しているが、400g以上のカワハギについては需要が多い活締め肝付として販売する。</p> <p>③ 漁協は、漁業者の所得向上のために「かそせいか焼き村」を漁師の顔の見える直売所とするべく、鮮魚や加工品の販売、イベント等の開催等に取り組む。また、ホームページを活用して「青森津軽日本海のお魚」、「白神の魚」などの情報発信を行うとともに、青森、弘前市をターゲットとした県内の道の駅やスーパー等と連携したイベントの開催により所得向上に取組む。さらに、アジアからの観光客が増えていることから、決済のキャッシュレス化</p> |
|---------------------|--|

| | |
|---------------|---|
| | <p>に取組み道の駅の利用率向上を目指す。</p> <p>④ 漁業者は、ヤリイカ、ウスメバルの水揚げ増を目的として藻場や産卵礁の整備を行政機関に要望していく。また、漁業者自らも整備された増殖場が維持されるように藻場の増殖や産卵期における操業自粛区域の設定によって産卵期の親魚を保護し、増殖場での産卵個体を増加させる。さらに、底建網に数多く産卵するヤリイカの卵を回収し、増殖場にてふ化出来るような体制づくりに取組むとともに、効果的な産卵個体の保護について、県や研究機関とともに計画を策定する。</p> |
| 漁業コスト削減のための取組 | ⑤ 漁業者は、漁船減速航行（1～2ノット減速）に努め、10%の燃油削減を目指す。 |
| 活用する支援措置等 | 省燃油活動推進事業（国）、水産環境整備事業（国） |

4年目（平成34年度）

| | |
|--------------|---|
| 漁業収入向上のための取組 | <p>以下の取組により、底建網漁業で6%、一本釣漁業で5%、延縄漁業で3%の所得向上を図る。</p> <p>① 底建網漁業者は第1期に引き続き活締めや神経抜き技術を活用して単価向上に努めると共に、長年の経験を生かした目引きにより価値のある魚を選別し、仲買業者、小売業者と連携した箱詰め数量等の改善により単価の向上に繋げる。</p> <p>一本釣漁業者は、第1期に引き続きウスメバルの色揚げや低温管理に取組み、需要が高くなった400g以上のウスメバルについては道の駅と連携し、「朝どれ」、「超新鮮」などをキャッチフレーズとした独自のメバル御膳の開発に取組む。また、県鮭ヶ沢水産事務所の指導のもと、新魚種としてサワラの一本釣と鮮度保持技術の習得に取組み、新たな収入源としての確立を目指す。</p> <p>延縄漁業者は、マグロ資源管理に対応するため、高値取引の時期を狙って操業するなど新たな操業秩序を構築し、協議を重ねていくことで、所得向上を目指す。</p> <p>高級魚として需要が高いノドグロ、アラに於いては漁場も限られていることから、資源回復を最優先として他種漁業と連携し、長期的な計画改善を行うことで所得向上を目指す。また、新魚種としてサワラの延縄漁業の導入について、他漁業との調整を図りながら検討し、鮮度保持技術を習得して収入源としての確立を目指す。</p> <p>② 多量の漁獲の際に安値で取引される魚種（カレイ、サバ等）においては、「かそせいか焼き村」を最大限に活用し、「友の会」と連携して加工、惣菜、飯寿司等の原料として提供し、付加価値を付けて販売する。</p> <p>カワハギについては、現在、道の駅にて野締め皮無しで販売しているが、400g以上のカワハギについては、需要が多い活締め肝付として販売する。</p> <p>③ 漁協は、漁業者の所得向上のために「かそせいか焼き村」を漁師の顔の見える直売所とするべく、鮮魚や加工品の販売、イベント等の開催等に取り組む。また、ホームページを活用して「青森津軽日本海のお魚」、「白神の魚」などの情報発信を行うとともに、青森、弘前市をターゲットとした県内の道の駅やスーパー等と連携したイベントの開催により所得向上に取組む。さらに、アジアからの観光客が増えていることから、決済のキャッシュレス化</p> |
|--------------|---|

| | |
|---------------|---|
| | <p>に取組み道の駅の利用率向上を目指す。</p> <p>④ 漁業者は、ヤリイカ、ウスメバルの水揚げ増を目的として藻場や産卵礁の整備を行政機関に要望していく。また、漁業者自らも整備された増殖場維持されるように藻場の増殖や産卵期における操業自粛区域の設定によって産卵期の親魚を保護し、増殖場での産卵個体を増加させる。さらに底建網に数多く産卵するヤリイカの卵を回収し、増殖場にてふ化出来るような体制づくりに取組むとともに、効果的な産卵個体の保護について、県や研究機関とともに計画を策定する。</p> |
| 漁業コスト削減のための取組 | ⑤ 漁業者は、漁船減速航行（1～2ノット減速）に努め、10%の燃油削減を目指す。 |
| 活用する支援措置等 | 省燃油活動推進事業（国）、水産環境整備事業（国） |

5年目（平成35年度）

| | |
|--------------|---|
| 漁業収入向上のための取組 | <p>以下の取組により、底建網漁業で8%、一本釣漁業で7%、延縄漁業で5%の所得向上を図る。</p> <p>① 底建網漁業者は第1期に引き続き活締めや神経抜き技術を活用して単価向上に努めると共に、長年の経験を生かした目利きにより価値のある魚を選別し、仲買業者、小売業者と連携した箱詰め数量等の改善により単価の向上に繋げる。</p> <p>一本釣漁業者は、第1期に引き続きウスメバルの色揚げや低温管理に取組み、需要が高くなった400g以上のウスメバルについては道の駅と連携し、独自のメバル御膳を開発し、朝どれ、超新鮮などをキャッチフレーズとして取組む。新魚種としてサワラの本一本釣と鮮度保持技術の習得に取組み、新たな収入源として確立する。</p> <p>延縄漁業者はマグロ資源管理に対応するため、高値取引の時期を狙って操業するなど新たな操業秩序を構築し、協議を重ねていくことで、所得向上を目指す。</p> <p>高級魚として需要が高いノドグロ、アラに於いては漁場も限られていることから、資源回復を最優先として他種漁業と連携し、長期的な計画改善を行うことで所得向上を目指す。また、新魚種としてサワラの延縄漁業に取組み、鮮度保持技術を習得して収入源として確立する。</p> <p>② 多量の漁獲の際に安値で取引される魚種(カレイ、サバ等)においては、「かそせいか焼き村」を最大限に活用し、「友の会」と連携して加工、惣菜、飯寿司等の原料として提供し、付加価値を付けて販売する。</p> <p>カワハギについては、現在、道の駅にて野締め皮無しで販売しているが、400g以上のカワハギについては、需要が多い活締め肝付として販売する。</p> <p>③ 漁協は漁業者の所得向上のために、漁師の顔の見える直売所として「かそせいか焼き村」において鮮魚や加工品販売、イベントの開催等を行う。ホームページを活用した「青森津軽日本海のお魚」、「白神の魚」などの情報発信を行うとともに、青森、弘前市をターゲットとして県内の道の駅やスーパー等と連携したイベントの開催により所得向上に取組む。さらに、アジアからの観光客が増えていることから、決済のキャッシュレス化に取組み道の駅の利用率向上を目指す。</p> <p>④ 漁業者は、ヤリイカ、ウスメバルの水揚げ増を目的として藻場や産卵礁の</p> |
|--------------|---|

| | |
|---------------|--|
| | 整備を行政機関に要望していく。また、漁業者自らも整備された増殖場が維持されるように藻場の増殖や産卵期における操業自粛区域の設定によって産卵期の親魚を保護し、増殖場での産卵個体を増加させる。さらに、底建網に数多く産卵するヤリイカの卵を回収し、増殖場にてふ化出来るような体制づくりに取組むとともに、効果的な産卵個体の保護について、県や研究機関とともに実施する。 |
| 漁業コスト削減のための取組 | ⑤ 漁業者は、漁船減速航行（1～2ノット減速）に努め、10%の燃油削減を目指す。 |
| 活用する支援措置等 | 省燃油活動推進事業（国）、水産環境整備事業（国） |

(5) 関係機関との連携

| |
|--|
| 県・町・近隣漁協とも連絡を密にし、地元の魚を売り込めるような体制作りに取り組む。 |
|--|

4 目標

(1) 所得目標

| | | |
|-----------------------|-----|-----------------|
| 漁業所得の向上10% (底建網漁業) | 基準年 | 平成27年度～29年度(平均) |
| | 目標年 | 平成35年度: |
| 漁業所得の向上10% (一本釣漁業) | 基準年 | 平成27年度～29年度(平均) |
| | 目標年 | 平成35年度: |
| 漁業所得の向上10% (延縄漁業) | 基準年 | 平成27年度～29年度(平均) |
| | 目標年 | 平成35年度: |

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

| |
|--|
| <p>基準年の漁業所得は、抽出した3名の直近3年（平成27年度～29年）の水揚げを平均し、水揚げ高から、経費・減価償却費（一律10%）控除したものとした。</p> <p>目標年の漁業所得については次のとおり。</p> <p>（目標年漁業所得）＝（所得向上の取組）＋（省燃油の取組）</p> |
|--|

(3) 所得目標以外の成果目標

| | | |
|-------------|-----|----------------|
| ヤリイカ活締め出荷割合 | 基準年 | 平成31年：10.0 (%) |
| | 目標年 | 平成35年：20.0 (%) |

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

| |
|------------|
| 別紙策定資料のとおり |
|------------|

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

| 事業名 | 事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性 |
|------------------|----------------------|
| 省燃油活動推進事業 (国) | 消費燃料の削減 |
| 水産環境整備事業 (国) | 産卵礁等の整備による資源量の増大 |